

令和5年度 東京都立立川高等学校 推薦に基づく入学者選抜（普通科）

小論文

注 意

- 1 開始のチャイムが鳴るまでこの問題用紙を開いてはいけません。
- 2 問題は **1**，**2** で **5ページ** にわたって印刷してあります。
- 3 検査時間は **50分** で、終わりは **午後0時00分** です。
- 4 声を出して読んではいけません。
- 5 答えはすべて解答用紙に**横書きで明確に記入し、解答用紙だけを提出**しなさい。
- 6 答えに字数制限がある場合は、**、や。や「**などのほか、**書き出しや改行の際の空欄もそれぞれ1字と数えなさい。**
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

現代社会では、職業は専門化しています。私たちは、自分の仕事には専門性があっても、他の分野ではまったくの素人^{しらうと}です。そのために、自分が知っている範囲以外では何が行われているかがまるでわからなくなっていますし、視野が狭くなり、どうしても自分の分野や組織のことばかりを意識的・無意識的に優先してしまいがちです。ここから問題が生じてきます。

たとえば、遺伝子組み換え食品の例を考えてみましょう。現在では、植物の遺伝子を組み換えて、害虫に強いジャガイモや病気に強いイネ、腐敗しにくいトマトなどが作られています。遺伝子操作で新しい品種の農産物を作るという場合、それを開発導入しようとする技術者や農業者の利益を推進するだけでは一方的すぎます。多くの人の不満や不安を無視しています。

健康が心配な消費者、新種が受け入れられるかを危惧する農業者、生態系への悪影響を心配する地元の人々、地域産業の発展を期待している人々など、食品をめぐる利害関係者にはさまざまな人がいます。それらの人たちの関心にも十分に配慮して、その食品の開発と導入を行わなければなりません。そのためには、遺伝子工学だけではなく、農業の仕組み、環境問題、健康や子育てなどさまざまな分野について、まずは思いが及ばなければなりません。

(河野哲也「問う方法・考える方法『探究型の学習』のために」による)

〔問〕 本文に、さまざまな分野について、まずは思いが及ばなければなりません。とあるが、現代において意見の違いが生じている問題の事例を一つ挙げ、立場の異なる人たちが主張しているそれぞれの意見と、そのように考える理由を示しなさい。また、それらの意見の違いが生じている問題を解決に導くにはどうしたらよいでしょうか。あなたの考えを **400 字以内**で述べなさい。ただし、本文中の「遺伝子組み換え食品」以外の事例を挙げること。なお、論の展開に応じて段落分けを行うこと。

2 次の文章と表をもとに、あとの問に答えなさい。

伊勢参宮の旅の歩行距離

ここでは、先に明らかにしたルート上を、東北地方の旅人がどのようなペースで歩いたのかを歩行距離に着目して考察します。歩行距離の算出は次の方法で行いました。

本章で取り上げた 39 編の旅日記の内容から、多くの旅人が実際に歩いた主要な街道を整理しました。旅人はいずれかの街道を歩いて東北から伊勢まで辿り着き、さらにいずれかの街道を経由して東北まで帰着したのです。

街道筋の宿場の配置とその間隔（距離）の情報は、当時の旅行案内書から知ることができます。多くの旅日記には、毎日の記録として宿泊した宿場の名称が記されていますので、当日出立した宿場から宿場までの距離を足していけば、一日あたりの歩行距離がわかってきます。

ただし、この方法で明らかにした歩行距離とは、主要な街道をひたすら歩いた場合の数値で、途中脇道にそれて名所や神社仏閣に立ち寄った分の距離は含まれていません。実際の旅人は、本章で算出される歩行距離よりも、さらに長い距離を歩いていたと理解すべきなのです。なお、本書では、近世の距離単位を km 法で表記しますが、その際、① $1\text{里} = 36\text{町} = 3.9\text{km}$ で計算しています。

歩行距離の平均値と総歩行距離

表 1・表 2 は、39 編の旅日記の分析結果より、在地出立から帰着までの総歩行距離、1 日平均の歩行距離、1 日に歩いた最長・最短の距離などを男女別に整理したものです。

前述の方法で計算したところ、東北地方の庶民（男女）による 1 日平均の歩行距離は約 34.1km でした。これまで、近世の旅人の歩行距離は 1 日に 10 里（約 39km）と把握されてきましたが、平均的な歩行距離は通説よりも若干短かった可能性があります。平均値は必ずしも当時の実情を伝えるものではありませんが、1 日の歩行距離が平均 10 里（39km）に達している旅日記は、②39 編中わずか 1 編だけでした。

次に歩行距離の男女差ですが、庶民男性の旅日記から導き出した歩行距離が 1 日平均約 34.9km であるのに対して、庶民女性の方は約 28.6km でした。そこには明確な差異を認めざるを得ません。これがそのまま歩行能力の男女差を示すものとは断言できませんが、長期間の旅にあたっては、女性の方が日々の歩行距離を抑制する傾向にあったといえるでしょう。

表中の「総歩行距離」の欄は、旅日記が示す総移動距離から徒歩で移動した分を通算したものです。多くの旅で全行程の総歩行距離が 2000km をゆうに上回り、平均では約 2361.3km を移動した計算になります。驚くべき健脚です。なお、③最も長い距離を歩いているのは、史料アの約イ km でした。前述したように、ここで算出された歩行距離とは、旅人が歩いたミニマムの

値です。実際にはもっと長い距離を歩いていたであろうことを、今一度確かめておきましょう。

距離別にみた歩行距離の割合

表1・表2の「歩行距離別の日数」の欄は、毎日の歩行距離を10km単位で区切り、^{おのおの}各々の距離の範囲に該当する日数を記載したものです。

全体としてみれば、1日あたりの歩行距離の割合は、平均値に近い20～40km台に集中しているものの、少ない日には1桁～10km台の場合もある一方で、多い日には60～70km台に達していたことがわかります。これが「1日10里」という通説だけでは知り得ない旅の実情です。

男性の日ごとの歩行距離が20～40km台に分布している一方、女性の歩行距離は平均値を反映するかのように10～30km台に集まっています。また、女性が60km以上の距離を歩いていないところからも、歩行能力の男女差を確認することができるでしょう。

歩行距離の限界

近世の東北地方の旅人にとって、1日に歩く距離はどの辺りが限界だったのでしょうか。

対象とした旅日記のうち、④1日に最も長い距離を歩いた庶民男性は、^{かえい}嘉永2(1849)年に丸森村(宮城県丸森町)から旅をした森右衛門です。⑤本章で取り上げた旅日記のうち、最長歩行距離が70kmに達しているものがあります。1日に70kmを歩き通すことは、当時としては不可能な数値ではなかったことになります。

一方、東北の庶民女性で1日の最長歩行距離を示しているのは、万延元(1860)年の『道中日記』(史料37)の旅で、^{おかやしもすわ}岡の谷～下諏訪の約59.7kmです。本章で扱う女性の旅日記(史料13、31、33、37、38)では、いずれも最長歩行距離が50km台に落ち着いています。女性の歩行距離の限界は1日に50km台だったと考えてよいでしょう。

(谷釜尋徳「歩く江戸の旅人たち」による)

(5-立普)

表1 東北地方の庶民男性による伊勢参宮の旅の歩行距離

史料 番号	表題	年代	期間	ルート の類型	日数				歩行距離 (km)				歩行距離別の日数 (日)							
					総日数	計測 日数	逗留	距離 不明	総距離	平均	最長	最短	～ 10km	10km 台	20km 台	30km 台	40km 台	50km 台	60km 台	70km 台
1	伊勢参宮道中記	1768	12.17～2.23	近	60	55	4	1	1892.4	34.4	54.1	11.6	0	5	12	22	11	5	0	0
2	西国道中道法並名所泊宿附	1773	5.25～8.20	四+富	84	73	2	9	2691.1	36.9	69.0	11.7	0	10	11	21	19	10	2	0
3	参宮道中記	1777	11.28～3.3	近	95	86	8	1	2829.0	32.9	46.4	7.4	2	6	20	39	19	0	0	0
4	西国道中記	1783	2.6～6.27	四	142	100	5	37	3018.7	30.2	58.6	7.8	4	17	26	31	17	5	0	0
5	伊勢参宮道中記	1786	2.4～6.17	四	124	73	43	8	2173.2	29.8	63.1	3.9	4	10	20	26	10	2	1	0
6	伊勢参宮所々名所並道法道中記	1794	1.16～4.16	四	90	73	10	7	2439.2	33.4	56.7	5.8	3	7	15	28	17	3	0	0
7	道中記	1799	6.27～9.21	四	77	67	7	3	2285.8	34.1	53.1	7.6	1	6	13	26	18	3	0	0
8	遠州秋葉・伊勢参宮道中記	1805	11.11～1.11	四	60	54	4	2	1898.5	35.2	58.1	7.8	2	6	4	24	13	5	0	0
9	御伊勢参宮道中記	1805	1.10～3.18	四	67	52	13	2	1837.4	35.3	60.6	11.7	0	9	8	18	10	6	1	0
10	伊勢道中記	1806	6.13～7.27	近+富	44	40	4	0	1307.6	32.7	52.6	11.7	0	3	11	21	3	2	0	0
11	伊勢参宮道中記	1811	閏2.20～5.15	近	84	66	14	4	2105.8	31.9	51.5	7.8	2	4	21	23	13	3	0	0
12	道中記	1814		四	86	80	4	2	2773.9	34.7	59.7	6.3	1	7	19	26	19	8	0	0
14	伊勢参宮西国道中記	1818	10.21～1.25	四	93	84	2	7	3014.3	35.9	67.9	9.7	1	5	13	37	23	4	1	0
15	伊勢参宮道中記	1818	12.2～2.2	近	62	54	7	1	2074.0	38.4	56.9	11.7	0	2	5	20	21	6	0	0
16	伊勢参宮旅日記	1823	1.6～4.3	四	86	68	11	7	2939.6	43.2	74.5	19.3	0	6	9	19	27	6	0	1
17	伊勢道中記	1826	1.14～4.15	四	92	79	8	5	2944.3	37.3	58.5	5.3	3	3	13	20	27	13	0	0
18	伊勢参宮花能笠日記/伊勢拜宮選録	1828	1.18～5.14	その他	115	70	10	35	2582.3	36.9	58.0	7.8	1	6	13	17	24	9	0	0
19	(表題不明)	1830	1.9～閏3.8	四	86	78	7	1	2583.2	33.1	61.8	6.0	4	7	16	30	20	0	1	0
20	道中記	1830	3.15～7.15	四+富	110	57	20	33	2127.1	37.3	61.2	11.6	0	6	6	22	17	3	3	0
21	(表題不明)	1831		四	66	56	8	2	1996.6	35.7	65.5	11.7	0	7	11	20	14	2	2	0
22	万字覚帳	1835	2.5～5.2	四	75	65	4	6	2139.9	32.9	53.6	7.8	3	4	11	32	13	2	0	0
23	道中日記	1836	1.26～4.29	四	90	75	14	1	2737.4	36.0	71.9	11.2	0	7	10	28	22	5	2	1
24	伊勢参宮道中日記帳	1841	1.5～3.10	四	96	74	17	5	2424.1	32.8	58.9	7.8	2	9	18	24	15	6	0	0
25	西国道中記	1841	12.11～2.8	四	85	73	9	3	2717.1	37.2	67.5	9.7	1	3	10	33	19	6	1	0
26	伊勢参道中の日記	1844	2.11～6.3	その他	106	57	38	11	1854.0	32.5	66.1	3.9	3	10	11	12	17	3	1	0
27	道中記	1849	1.26～4.29	四	79	74	2	3	2594.4	35.1	56.7	7.8	2	5	11	35	18	3	0	0
28	(表題不明)	1849	6.27～10.3	四+富	95	74	14	6	2740.0	36.2	75.0	4.9	1	8	15	25	15	7	1	1
29	(表題不明)	1849	10.15～1.9	四	83	69	8	6	2413.7	35.0	63.1	15.5	0	2	18	27	17	4	1	0
30	伊勢参宮道中記	1850	1.9～3.17	近	63	59	4	0	1890.5	32.0	52.3	10.5	0	12	11	27	8	1	0	0
32	伊勢道中記	1853	5.24～8.9	四+富	75	64	6	5	2423.2	37.9	56.5	11.7	0	5	12	16	24	7	0	0
34	道中日記帳	1856	2.1～4.17	四	73	49	12	12	1661.4	33.9	54.8	2.1	3	6	7	15	13	5	0	0
35	道中記	1857	1.25～5.15	四	109	90	8	11	3174.8	35.3	74.3	6.1	1	8	20	30	25	3	2	1
36	伊勢参宮并熊野三社廻り金毘羅参詣 道中道法附	1859	2.9～5.29	四	104	82	9	13	2861.2	34.9	70.8	9.2	1	6	21	33	13	6	1	1
39	道中帳	1866	1.7～4.16	近	96	92	3	1	3169.7	34.4	54.2	7.8	3	9	16	33	29	2	0	0

※「ルートの類型」の記号：近→近畿周回型/四→四国延長型/富→富士登山セット型

表2 東北地方の庶民女性による伊勢参宮の旅の歩行距離

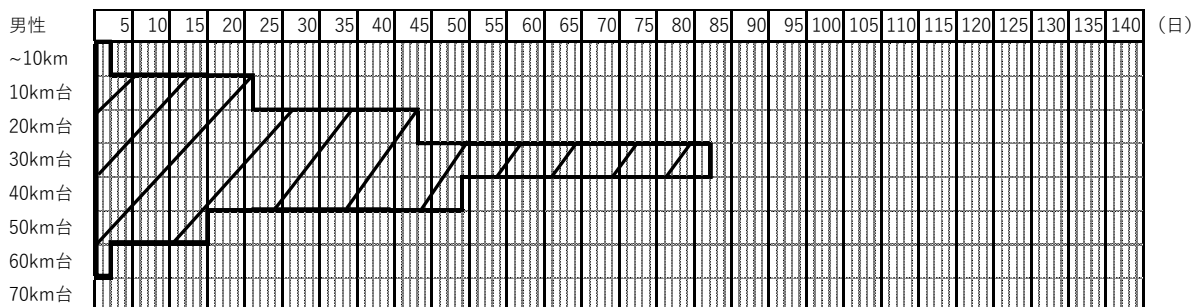
史料 番号	表題	年代	期間	ルート の類型	日数				歩行距離 (km)				歩行距離別の日数 (日)							
					総日数	計測 日数	逗留	距離 不明	総距離	平均	最長	最短	～ 10km	10km 台	20km 台	30km 台	40km 台	50km 台	60km 台	70km 台
13	道中日記	1817	3.23～7.11	近	108	54	42	12	1584.5	29.3	56.5	7.8	3	10	14	18	8	1	0	0
31	道中記	1853	3.26～6.30	近	94	60	16	18	1803.6	30.0	53.5	7.8	1	14	12	27	4	2	0	0
33	西遊草	1855	3.19～9.10	四	172	61	79	32	1812.3	29.7	55.9	6.0	5	11	16	16	10	3	0	0
37	道中日記	1860	7.6～9.27	近+富	65	57	4	4	1633.5	28.7	59.7	7.8	2	12	15	21	4	3	0	0
38	参宮道中諸用記	1862	8.22～12.24	四	147	116	27	4	2942.6	25.4	53.5	7.1	2	31	56	22	2	3	0	0

※「ルートの類型」の記号：近→近畿周回型/四→四国延長型/富→富士登山セット型

〔問１〕 次の（１）～（５）の問いに答えなさい。

- （１）表１の史料番号 26 の歩行距離（km）平均の欄には 32.5 とあるが、距離単位を換算するために、① $1\text{里}=36\text{町}=3.9\text{km}$ の規則を利用して、32.5km が何里何町になるか求めなさい。
- （２）②39 編中わずか 1 編だけでした。とあるが、「39 編中わずか 1 編」にあたる史料番号の数字を答えなさい。
- （３）③最も長い距離を歩いているのは、史料 ア の約 イ km でした。とあるが、空欄 ア に入る史料番号の数字と、空欄 イ に入る最も長い距離の数字を答えなさい。
- （４）④1 日に最も長い距離を歩いた庶民男性は、嘉永^{かえい}2（1849）年に丸森村（宮城県丸森町）から旅をした森右衛門です。とあるが、「最も長い距離」は何 km か答えなさい。
- （５）⑤本章で取り上げた旅日記のうち、最長歩行距離が 70km に達しているものがあります。とあるが、「最長歩行距離が 70km」を超えている史料は何編あるか答えなさい。

〔問２〕 次のグラフは表１の上 3 行のデータ（史料番号 1、2、3）をもとに男性の歩行距離別の日数（日）を合計してグラフにしたものです。このグラフを参考にして、表１の下 5 行のデータ（史料番号 32、34、35、36、39）をもとに歩行距離別の日数（日）を合計したグラフを作成しなさい。



- 〔問３〕 表１、表２に示された史料とは別の史料『伊勢詣同行定』によると、
「日々の道中の歩行距離は（Ａ）里を目安とし、それが（Ｂ）里にまでおよびそうな場合は、同行者間での相談が必須だ」と記されています。
あなたならＡとＢに入れる数字をいくつにしますか。ＡとＢに入る数字とそうように考えた理由を、本文または史料の中で根拠にした部分を示しながらあなたの考えを答えなさい。ただし、ＡとＢの数字は整数とする。

問題は以上です。

